

第4回縮充のまちづくり検討委員会

2024.8.21

●テーマ：第1回～第3回までの話し合いで見えてきた縮充の方向性を確認

◆つながり

- ・地域づくりの支えあい
- ・押しつけじゃないつながり
- ・共同作業、本来はみんなで出来る楽しいこと
- ・負担感を共同作業で削減
- ・負担と負担感＝配慮で解決できる
- ・広域で協力できることつながり

◆意識

- ・意識変えるのムズカシイ
- ・余白がある ・帰ってこいと言える
- ・やりがい<<<しんどい
- ・個人、世帯への配慮
- ・住んでいる人の意識をかえるべき

◆見直しや工夫

- ・ひまわり畑の維持・大変 （高齢化）
- ・自治会のあり方（担い手不足、自治会統合）
→ゆるい協力関係から始める
- ・いろんな活動を集める
→同じ場所で、喫茶、イベント、買い物、図書館
- ・「縮」と「充」の関係性
→縮すること自体が充になる
- ・見直し方の議論が必要
- ・子ども食堂の充実+ふれあい喫茶との一体実施
- ・地域活動＝ボランティア？当たり前では
地域活動＝ボランティアではない
- ・各イベントが同じ日付もったいない
- ・行政、地域共に「変化してもいい」という
考えを持っていく←特に大切
- ・続けるには変化させている
- ・続いている行事、ちゃんと目的伝えているのでは

◆仕事

- ・働く場所の充実←交通の便でカバーできるよ！
- ・介護・福祉→仕事はあるが、働き手がない
- ・工場、小売業は縮小していく
- ・企業誘致＝西方面（岡山等）へPR？

◆大切にしたい

- ・誇りを大切に（愛着） ・当たり前の良さを認識しよう！
- ・地産地消、食を大切にしまち ・地産地消大切、環境
- ・学校給食は佐用産のものを！
- ・給食のお米は佐用さんだと知る場をつくろう
- ・交通の便の良さをPRしよう！＝仕事もある！通える！
- ・佐用町の魅力を発信できれば←外の魅力を感じられる
- ・外向けではなく町民へのPR
- ・社会教育に影響していく「地域は楽しいよ！」楽しい経験

◆女性

- ・女性の活躍が大事！カギ！
- ・女性の活躍は産業の活性化につながる
- ・女性が活躍するためには、子どもの居場所づくりが大切
- ・女性役員がない（女性のアイディア・発送を活かすべき）
- ・女性が参加できるのも、子どもさんの年齢にもよる
- ・女性の活躍→でも活躍できる時間がない
- ・自分らしい生き方・やりがいがある→（女性）地域に進出せず、社会に進出する
- ・女性が「もてなす」固定化されている
- ・女性の社会進出が産業の活性化につながる、男性の協力がないと実現できない
- ・男手の不足（力仕事）→女性もやれる活動への転換
- ・女性参加で盛り上がることあるのに→そういう雰囲気にもっていけない、発想を変えないと

◆若者

- ・若者の発言、内容を聞く前に否定→どんどんチャレンジ・頭から否定しない発想
- ・若者の参加を促進したいがどうしたら…
- ・特色ある高校づくり ・魅力ある佐用高校へ、魅力の発信不足
- ・（若者）大都市へ流出⇔住み続けたくなる地域

◆子ども

- ・子どもの移動手段が親のみ→子供たちが参加できる環境づくり（地域イベント）
- ・子どもたちがやりたい事を実現させる
- ・子育てしやすいまち ・心を育む環境をつくる
- ・子ども交通問題 （子どもの居場所大切） ・子どもに思い出づくってほしい
- ・子どもをもっと預かってくれる仕組み必要
- ・呼び戻したいけど言えない＝ポジティブになりたい

◎今日のまとめ〔特に大切・よく出た話〕

◎女性の活躍

- ・子供の居場所
- ・男性も一緒に
- ・本当に「活躍」？人権では？
- ・便利だからこそ外を意識しすぎる
- ・もっと町内にまちのPRを
（例：給食は佐用のお米）
- ・教育や学校を自慢できれば
- ・女性がもてなすが固定されすぎ

◎佐用に愛着・誇りをもつ

◎女性・若者・こども

◎余白・余力がある

◎何をするにも目的を伝える⇒次の世代にしっかり伝える

◎社会教育や学ぶ機会

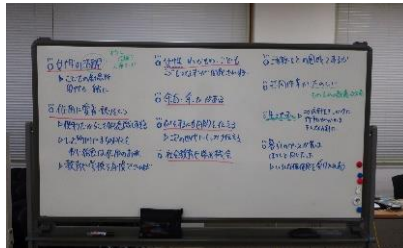
◎活動をどの圏域するか

◎共同作業がたのしい⇒そのための配慮は必要

◎生きやすい⇒この方針をきっかけに行動がかわるそんな方針に

◎暮らしのペースが昔はほとんど同じだった

⇒いろんな価値観を受け入れあう



◎見えてきた方向性

- 「縮」と「充」の関係性
⇒縮すること自体が充になる
- この方針をきっかけに行動
がかわるそんな方針に